資料 DF103-1

第102回デジタル放送普及活動作業班会議　議事録（案）

1　日時　2023年11月30日（木）　15時00分～15時55分

2　場所　一般社団法人電波産業会内第3会議室、及びWebex会議

3　出席者

（構成員）

委員等：

高田議長、（株）TBS テレビ 深澤委員、（株）テレビ朝日 井上委員、日本電気（株）橋本委員、長井委員、NHK 岡野委員（採用国対応TF主任)、（株）テレビ東京 樽見委員、日本テレビ放送網（株） 佐藤委員、（株）日立国際電気 宮下委員、（株）フジテレビジョン 大森委員、マスプロ電工（株） 犬飼委員

次世代放送検討国対応TF主任（NHK）神原様

情報共有者：

日本電気（株） 平岡様、佐潟様、八千代エンジニヤリング（株） 峯松様、（株）ACCESS 神立様

(オブザーバ)

放送技術課　谷田課長補佐、伊藤係長、飯塚官

国際経済課　林専門職、仲田官

国際協力課　加藤課長補佐、小林課長補佐、土田専門職、鳥居専門職、笹木官、太田官

国際展開課　小森課長補佐、酒匂主査、茂木官

(事務局)

児玉、岡野、中村、野尻、佐久間、小島

4　＜配付資料＞

資料 DF102-1　　第101回デジタル放送普及活動作業班会議議事録（案）

資料DF102-2-1　“TV 3.0 Project- Phase 3 - Over-the-air Physical Layer Laboratory Test”

資料DF102-2-2　ブラジル次世代地上デジタル放送TV 3.0 室内実験の結果報告

資料DF102-2-3　TV 3.0物理層Ph3　各提案の試験結果（サマリー部のみ抽出）（後日配布）

資料 DF102-3　　Inter BEE 2023出展参加報告

資料 DF102-4-1　ITU-R SG6 ブロック会合の結果と次会合に向けた『今後の課題』について

資料 DF102-4-2　ITU-R SG6 ブロック会合の結果と次会合に向けた『今後の課題』への回答（案）

資料 DF102-4-3　WP6A Terrestrial broadcasting delivery

資料 DF102-5　　地上デジタル放送システムの国際普及活動2024年度実施計画（案）

資料 DF102-6　　ISDB-T海外普及活動予定表

資料DF102-7　　FoBTV Technical Committee会合 結果報告

参考資料 DF102-1　デジタル放送普及活動作業班構成員名簿

5　議事要旨

開会に先立ち、今回会議から参加する国際展開課の小森課長補佐、酒匂主査、茂木官より自己紹介した。また、後刻放送技術課の飯塚官よりも自己紹介した。

（1）　前回議事録案［資料 DF102-1］について事務局より出席者に確認し、会議終了までに最終的に意見・コメントを求めたところ、最終的に特にコメントなく承認された。

（2）　ブラジル TV 3.0 関連の現状報告として、次世代放送検討国対応タスクフォース（TF）の神原主任より［資料 DF102-2-1］及び［資料 DF102-2-3］にもとづき SBTVD フォーラムにより公表された 3 方式(日本の地デジ高度化方式 ＝ Advanced ISDB-T、ATSC 3.0、5G Broadcast) の室内実験結果について概要説明があった。

日本方式については 44 ページ分、ATSC 3.0 について 32 ページ分、それに今回落選した 5G Broadcast について 22 ページ分と、報告書中に割いている結果の分量にばらつきがあること； 日本方式と ATSC 3.0 については “Not verified（今回実施せず）”はあるものの大半が“Fulfilled（実証した）”となったこと； 一方で、落選した 5G Broadcast はブラジルが期待していた試験機材を送付できず、受信機周波数が 622～632 MHz 帯に限定されたもの（通信用途）であったこと； CH 帯域幅が 10 MHz のものでブラジル側要求を満足していなかったこと； そもそも 6 MHz 帯域のものでなかったため各種試験ができなかったことにより“Not fulfilled（未達）”となった項目が多かったこと、などについて数値を示しながら淡々と記述されており、「どの方式が優れている」などの論評は避けながら、日本方式と ATSC 3.0 が満場一致で次のステージに進むこと、が了承されたことが説明された。

続いて橋本委員より［資料 DF102-2-2］にもとづき Advanced ISDB-T の CfP Ph-3 の室内実験結果の詳細及び今後の見通しについて説明があった。

日本方式の室内実験は本年 6～7 月にかけてマッケンジー大学で実施され、CfP Ph-2 の試験要領にもとづいて 14 項目の試験が実施されたこと； 2021 年の試験結果と比較し、C/N (Carrier power vs. Rayleigh/AWGN)、同一チャンネル干渉、チャンネルボンディング、周波数再利用チャンネル認識安定度について改善されたこと、などにより Ph-3 の要求項目をほぼクリアできたことが説明された。

今後の野外実験の開始時期については、試験機材が今週現地（リオ）に到着したばかりであり、今週中にもいつから開始するのかを SBTVD フォーラムの Luiz Fausto 氏に問い合わせる予定； 8 月の SET EXPO の際に日本側意向として「12 月から野外試験を開始したい」と表明していることもあり、ブラジル側も承知しているものと想定していると説明された。

（3）　スリランカ地デジ標準規格関連での問合せへの検討状況について、採用国対応 TF の岡野主任より口頭にて、前回会合の際に総務省殿経由で届いた質問・コメントに対し、TF で資料を共有し、打合せ等を実施し回答方針等を確認したこと； その後回答文案の作成・確認を行ったこと； 回答案がまとまり、現在英文案の最終確認をしていること； この後 TF にて内容確認のメール審議を実施し、その後 DiBEG に上げていく予定になっている、ことを説明した。

質問・コメントは全部で 26 項目あり、最後の 1 項目に対する回答を確認次第、遅くとも

週明けにはTFに投げかけられる見込みで、ほぼ1週間の検討期間を置いてDiBEGでのメール照会に移る見込みであることが確認された。

(4)　事務局より、11月15～17日にかけて開催された Inter BEE 2023への ARIB／DiBEGの出展対応結果について［資料 DF102-3］で報告した。

(5)　ITU-R SG6 ブロック会合の結果と課題検討の依頼について、議長より［資料 DF102-4-1］及び［資料 DF102-4-3］をもとにこれまでの経緯を説明し、［資料 DF102-4-2］に示す回答（案）、すなわち情報提供に謝するとともに、ブラジル TV 3.0 対応に向け現状と今後の予定を提供し、引き続き情報提供をお願いしたい旨を回答予定であることを説明し、了承された。

(6)　来年度事業計画及び2024年度特別経費徴収について、議長より［資料 DF102-5］をもとに事業計画案について概要を説明し、意見・コメント等あれば次回会合までに事務局宛てに連絡されたいと依頼した。
　また、事務局の中村より、2024年度の DiBEG 活動の原資とするため来年度も特別経費を今年度と同額で徴収させていただくこと； 請求は例年同様、来年5月か6月になることを説明した。

　議長より補足として、来年度事業計画は今年度と大きく変わるものではないこと； また特別経費について今回説明したのは、各社とも来年度の予算確保を早めにお願いしたいためであることを説明した。

(7)　今後のスケジュールについて谷田課長補佐より[資料 DF102-6]にもとづいて説明された。前回資料から更新された部分としては：

- エルサルバドル政府発表として2024年6月1日までにすべての放送事業者は地デジ放送波を発射することとし、2024年12月1日までにASOを完了予定。
- （資料には反映していないが）先週の現地報道によるとブラジル通信省において、全土約1000都市において2025年6月までASOを延期方向で準備を進めているとの情報があり、まだ制度改正には至っていないとのことで、正確な情報を入手次第、資料内容を更新する。
- フィリピンについて、ASOを2023年としているが、完了の目途が立たないので「2023年以降予定」と変更した。
  またJICA協力準備調査について、今年後半終了予定だったものを来年以降に延期と変更した。
- アンゴラについて、今年8月から総務省予算事業としてEWBS導入可能性を評価する目的での支援を開始している。
- （資料にはないが）ASOが既に完了しているボツワナで、今年初めころから受信障害が発生しており、恐らく送信機障害と思われるものの、現地関係者が調査中。

(8)　FoBTV Technical Committee会合 結果報告として、議長より［資料 DF102-7］にもとづき、9月の IBC Amsterdam開催中に行われた会合の概要を説明した。

(9)　次回DiBEG会議の開催予定について事務局より、2024年1月18日（木）15:00 ～ 16:30に開催予定とし、開催方法は別途ご連絡すると案内した。

以上